

日遊協をはじめパチンコパチスロ産業界では  
社会貢献活動を事業の大きな柱として展開しています  
日頃から市民社会の中で取り組んでいる  
「ふだん着の社会貢献」の姿を  
連載します



## 「募玉」を柱に、常に心をこめて お客様にも地元の町にも多角的なトライ ピーアークホールディングス(株)

「募玉活動」という言葉をご存知ですか。募金ではなく、ホールに「募玉箱」を置き、ポスターで趣旨を告知、お客様の善意のパチンコ玉を集めます。それを換算して社会貢献に活用しているのです。ユニークな活動を実践しているピーアークグループ、ピーアークホールディングス株式会社(庄司正英代表取締役社長)は、単に会社がお金を出して寄付をするのではなく、「店舗とお客様が一緒に考えて動き出す」という姿勢を基本として、社員の一人ひとりが1年中、自発的に体を動かしています。

ピーアークグループのチャリティーに関する取り組みの中に、大きな

3本の柱があります。

●「スペシャルオリンピックス(知的発達障害者の世界的なスポーツ大会)を多くの人たちの心のバリアフリー促進のために応援している。」

●「世界の子どもにワクチンを」日本委員会へ1994年から協力を続けている。すでにワクチン117万本分に相当する支援を行っている。

●「長野県王滝村の森林再生へ」植林はしたものの雑木林になってしまった2600haを健全な森、里山に戻す活動の1歩を「ピーくん、プラスワンの森」と位置づけてスタート。

この3つの運動を支えているのが、「ピーアークの募玉活動」なのです。ピーアークは首都圏に42店舗を展開していますが、その多くのホールに「ピーくんの募玉箱」が仲良く3つ並んでいます。お客様の中には、趣旨に共感しスタッフが驚くほどの玉数を入れてくれる人もいます。

「駅前清掃から日本最大級のフリーマーケットまで」

ピーアークグループのもう一つの大きな特徴に、地域社会、地域の私たちの関係性を非常に大切に求めているのか。自分たちは地元のために何ができるのかを常に考

えています。「ピーアーククリーン隊」と称して、何店もの店舗と本社スタッフが開店前に近隣の駅前や商店街を清掃活動するのは、当り前の日課となっています。また、ピーアーク三田やピーアークユウカリが丘をはじめとして、清掃だけでなく地域の行事、お祭り、運動会、商店街の課題解決に積極的に参加し、半数近くの店舗に講習も受けて、AEDを設置し、万一の場合のためにも役立つようにしています。

「企業市民として、ピーアークは、地域にとってどんな存在なのか、価値ある存在なのか。それが、いつも問われています。自分たちの都合のいい時だけ行動するのはダメです、だから私たちは1年中動いています」と本間圭輔広報・IR室長は、ピーアークスピリッツを強調しています。

実は、ピーアークの活動は他にもまだまだありました。20年も前から「日本テレビ24時間チャリティー愛は地球を救う」のために、店頭で専用ブースを設け、地域の皆さんの募金活動に協力。

2002年から日本最大級の「募張メッセ」で

募張メッセ

フリーマーケット」の冠スポンサーとなり、5月の連休3日間で4000店、20万人以上を集める催しに育て上げてきました。ピンクリボンという乳がんの早期発見活動への応援、洞爺湖サミットでも展示された、リアルタイムの世界気象映像や地球温暖化の様子が楽しみながら勉強できる「触(さわ)れる地球」の足立区役所等への無料貸し出しなど驚くばかりの精力的な展開で、地域や団体からの表彰は数え切れないほどです。

これだけの展開ができるのも、「Fun for the Customer」すべてはお客様のために、「Fun for the Area」すべては地域社会のために、「Fun for the Staff」すべては仲間たちのために、そして「CSR(企業の社会的責任)こそ大切」と強調し続けてきた庄司正英代表取締役社長の創業からの熱い思いが生きているからに違いありません。

「日本テレビ24時間チャリティー愛は地球を救う」のために、店頭で専用ブースを設け、地域の皆さんの募金活動に協力。

2002年から日本最大級の「募張メッセ」で

募張メッセ

募張メッセ

募張メッセ

募張メッセ

募張メッセ

募張メッセ

募張メッセ

募玉活動のポスター「ピーくんチャリティー」と目的別に分けられた募玉箱



ピーアーククリーン隊として開店前に清掃活動に取り組む